

## 令和4年度 第14回入学式 祝辞

本日、改めて入学を許可された皆さん、入学おめでとうございます。また、御出席いただきました保護者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

一生に一度の入学式への出席ができないまま、高校生活が始まった皆さんは、少々残念な気持ちだったと思います。しかし、2年前は小中学校や大学等を含めて入学式を行わなかった学校も珍しくはありませんでした。今年はほとんどの学校が入学式を対面で行いましたが、2年前よりも若い人の感染割合が高い中、新入生が全員揃っての入学式は県内はもちろんのこと全国どの高校でもできていないのではないかと思います。

このような状況の中、本校といたしましては改めて歓迎の気持ちを確認していただきたく、本日、このような場を設けました。少し時期が遅くなりましたが、皆さんには「高校生になった」という入学への喜びを感じてほしいと願っています。

私が4月10日の入学式で式辞として話した内容は配付したとおりです。その中にも記載していますが、小中学校と高校との違いは義務教育であるか、そうでないかです。義務教育というのは皆さんに義務があるのではなくて「保護者がわが子に教育を受けさせる義務がある」という意味です。反対に、高校生は「保護者の了解のもと、自らの意思で自分自身を成長させるために学校の教育活動に積極的に参加する」ということが求められます。

法律の改正により、今年から成年年齢が18歳になりました。また、年齢に関係なく、高校卒業後、間もなく自立しなければならない時が来ます。先生方や先輩との交流を通して人間的にも成長し、大人として自立するにはどんな力が必要なのかということも学校行事や部活動等の機会に学んでください。

高校3年間は過ぎてしまうと本当に短く感じるものです。これからの3年間、一日一日を精一杯楽しみながら、将来に役立つと思うことには積極的に取り組んでほしいと思います。

本校の歴史は浅いのですが、母体となった3つの専門高校の伝統とともに、ポーツマス条約締結で歴史に名を残した明治の外交官・小村寿太郎侯が学んだ飫肥藩の藩校「振徳堂」の精神を受け継ぐ高校として地域から期待されています。

その期待に応えられるよう日南振徳高校の生徒となった自信と誇りを大切にしながら、実りの多い高校生活となるよう祈念して祝辞といたします。

改めまして、入学おめでとうございます。頑張ってください。

令和4年4月20日

宮崎県立日南振徳高等学校

校長 山下 勉